

三八地域アスパラガス産地化推進セミナー初開催

当部では、昨年度から県重点枠事業により八戸平原地域でのアスパラガスの産地化を進めています。その一環として、昨年12月22日、八戸市農業経営振興センター多目的研修室においてセミナーを開催し、生産者、関係機関など80名が参加しました。

講師に明治大学農学部元木 悟 准教授を迎え、「アスパラガス栽培の基本と長期多収のポイント」と題して、生理・生態から、国内外の産地の取組状況まで幅広く御講演頂きました。参加者からは、国内の生産見込みなど多くの質問が寄せられ、アスパラガス生産への関心の高さがうかがわれました。



講演中の元木准教授

その他の話題

ジュネ(エゴマ)を田子町の特産に

田子町において、ジュネは平成26年まではほとんど自家用程度の作付けでしたが、健康志向の高まりから作付けの気運が一気に高まり、平成28年には「ジュネ連絡協議会」(宮村祐貴会長、事務局田子町)ができました。そして、栽培青空教室の開催など作付けを推進したことにより、平成28年には作付けが33.2aに増え、現在も増加傾向にあります。同協議会では栽培しやすい環境を整えながら、ジュネを田子町の特産作物にまで増やしていきたいと考えています。



「ジュネ連絡協議会」によるジュネ栽培青空教室 (H29.6.10)

交流を深める三戸町梅内りんご組合と「白門りんごの会」

平成25年に三戸町出身の中央大学OBから東日本大震災の復興支援を兼ねたりんごオーナー制度の申込みが三戸町にあったことがきっかけで梅内りんご組合と中央大学OBでつくる「白門りんごの会」との交流が始まりました。年2回りんごを送り、9月にはオーナー達が同町を訪れ、りんごの収穫やバーベキューを囲むなど農家との交流を深め、当初58名だったオーナーも交流5年目の平成29年には107名に増えました。また、昨年9月には、松尾三戸町長から白門りんごの会へ感謝状が贈呈されました。



松尾三戸町長から白門りんごの会松木会長に感謝状贈呈(H29.9.13)

収入保険制度を知っていますか？

収入保険制度は、自然災害による収量減少だけでなく、価格低下なども含めた収入減少を総合的に補てんするというもので、加入対象者は青色申告を行っている農業者です。保険期間は平成31年1月からスタートしますが、農業共済やナラシ対策、野菜価格安定制度などの類似制度と重複で加入できないので注意が必要です。加入申請の受付は、平成30年10月頃に地域の農業共済組合が行う予定ですので、詳細については、三八管内の方は南部地域農業共済組合にお尋ね下さい。



農業普及振興室ホームページはこちら↓
<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/sa-nosui/>

みどりの通信 平成29年度第3号

〈三八地域県民局地域農林水産部〉

・農業普及振興室
〒039-1101 八戸市大字尻内町字鴨田 7
TEL : 0178-27-5111 (代表)
TEL : 0178-27-4444 (直通)
FAX : 0178-27-3323
・農業普及振興室分室
〒039-0134 三戸町同心町字同心町平 54-7
TEL : 0179-23-3264
FAX : 0179-23-3274



JA 八戸桃専門部が「意欲溢れる攻めの農林水産業賞」を受賞！

この度、県主催の「平成29年度意欲溢れる攻めの農林水産業賞」の奨励賞を八戸農協の桃専門部が受賞しました。長年、栽培技術の向上や消費者ニーズを捉えた光センサー式選果機導入による高品質な桃の販売を行い、単一農協では初めて2年連続で1億円を達成したことなどが高く評価されたものです。昨年11月に青森市の国際ホテルで行われた表彰式では、油川県農林水産部長から赤石裕専門部長に賞状と記念品が授与されました。

●油川県農林水産部長から賞状を授与される赤石裕専門部長(H29.11.13)



県南地域初！大吟醸酒向け酒米「華想い」の本格作付け開始

JA八戸水稲部会三戸酒米支部では、平成元年から作付けしている純米酒向けの酒造好適米「華吹雪」に加え、平成27年から2年間、大吟醸酒向けの「華想い」を試験栽培し、酒蔵からは「申し分ない品質」との評価を得ることができました。平成29年からは本格的な作付けを開始するとともに、「青森県農山漁村「地域経営」レベルアップ事業」を活用してタンパク質含有率を測定できる食味分析計を導入し、酒蔵が求める低タンパクな酒米の生産を目指しています。当室では、今後も高品質酒米の生産に向けて支援していきます。



毎年実施している現地巡回の様子



導入した食味分析計

管内農業者の活躍

青森県花の共進会において、新郷村の2農家が優秀賞受賞！

平成29年7月25日(金)に、第44回青森県花の共進会が開催され、出品数109点の中から、佐野純一氏(新郷村)の黄輪ギク「精興栄山」が優秀賞(県知事賞)、荻沢征宏氏(新郷村)の白輪ギク「精の一世」が優秀賞(東北農政局長賞)を受賞しました。佐野氏は黄輪ギクを、荻沢氏は白輪ギクを主軸にした経営をしており、出荷先市場から高い品質評価を得ています。当室としては、品質低下の一因となるうらごけ(上位葉が小さくなる症状)対策や病虫害防除の注意喚起などを行い、高品質生産の支援を継続していきます。



表彰式の様子

右手前：佐野氏、右奥：荻沢氏



左側：黄輪ギク
「精興栄山」
右側：白輪ギク
「精の一世」

「あおもり土づくりの匠」に西村忠志氏が認定

県では、高度な土づくりを実践し、地域農業のリーダーとして健康な土づくりの指導的な役割を担う生産者や高品質な堆肥を生産・供給している畜産農家を、「あおもり土づくりの匠」として認定しています。

これまで三八地域では5名が認定されていますが、今年度新たに南部町でおうとうやピーマン等を栽培している西村忠志氏が認定されました。西村氏は鶏ふん等を用いた自家製堆肥による土づくり、機械除草や木酢液等を使用した環境にやさしい農業技術を確立しており、この取組が認められました。



認定証を授与される西村氏

全国和牛能力共進会で管内2農家が優等賞を受賞！



大会終了後会場にて

平成29年9月5日から7日間、宮城県仙台市において第11回全国和牛能力共進会が開催されました。

三八管内からも種牛の部、肉牛の部に合計21頭が出品され、第3区(若牛の2)では大沢昭友氏(三戸町)が、第4区(系統雌牛群)では尾形欣典氏(田子町)が優等賞を受賞したほか、その他生産者も前回大会を上回る成績を収めました。

一方、課題として、①出品頭数の減少、②体のつくり、特に前軀幅、肋張りが充実していないことなどがあげられました。

当室としても、今後はこれらの改善に向け、農家への支援に力を入れていきます。

「ながいも共進会」にて五戸町の豊川真寿氏が最優秀賞受賞！

平成30年1月16日、JA十和田おいらせ本店においてJA全農あおもり主催の「平成29年度ながいも共進会」が開催され、県内4農協から計30点が出展されました。

三八管内からは、4Lの部で豊川真寿氏が最優秀賞(知事賞)を受賞したほか、同部門で土橋佳孝氏(階上町)が優秀賞を、2Lの部で川村親穂氏(五戸町)が優秀賞を受賞しました。受賞者3名は、いずれもながいも若手研究会のメンバーで、ながいもプロフェッショナル養成所等にも参加し、技術研鑽に励んでいます。

●表彰式後の豊川夫妻



開催イベント

『安全確認もう一度！ 私たちも農作業安全に努めます！』

当室では平成29年11月24日、ヤンマーアグリジャパン(株)東日本カンパニー(六戸町)において、青森県農業機械協会と連携し、管内若手女性農業者を対象とした「平成29年度三八地域若手女性農業者農作業安全講習会」を開催しました。

講習会では、農業機械の部品名と役割、基本的な点検方法を学んだほか、管内の農作業事故事例報告やキャッチャークラブ(五戸町と新郷村の大型特殊免許を保有する女性の組織)谷地村会長からの『農作業時にヒヤリとした経験』ビデオの紹介により、農作業事故防止のポイントを学びました。参加者からは、農業機械のメンテナンスなど日頃疑問に思っていることについて質問がありました。また、今回は、女性農業者だけでなく御夫婦で参加した方達もおり、参加者同士で農業機械のトラブル解決方法について情報交換されていました。



メンテナンスについて学ぶ参加者

管内若手農家が八戸ワイン等の先進事例を視察

当室では、農業技術の習得や向上、交流促進を図るため管内の新規就農者や4Hクラブ員等の若手農業者を対象に視察研修や冬期研修会を実施しており、平成29年8月24日に、「三八地域青年農業者の集い」を実施しました。①八戸ワインのブドウ栽培ほ場、②JA八戸のながいも洗浄施設、③十和田市のながいもの生産法人等三八上北地域の事例を視察し、参加者は各取組の代表者の説明に聞き入っていたほか、参加者相互で意見交換し交流を深めました。



ワイン用ぶどう栽培ほ場にて



JA八戸ながいも洗浄施設視察の様子